

主日礼拝

2024年03月24日
午前10時30分

前奏「人よ、汝が罪の(21--294)」
(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

それから、弟子たちに言われた。「わたしについて
来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、
わたしに従いなさい。」 (マタイによる福音書 16:24)

頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちちせいれいのひとりの主よ、さかえとち
からはた一だ主にあれ、と一こしえまで一。
アーメン。

受難節のリタニー

《受難節第6主日》

司式者：私たちは群衆と同じように深く考えないで、
不正の波にのったことがあります。これからは
もっと、私たちにもものを正しく見る目と、
判断力を与えてください。

会衆：主よ、私たちがあわれみ導いてください。

司式者：群衆の「ホサナ」は すぐにまた「十字架に
つける」に変わったことを思いつつ、この
ろうそくを消します。(消火)

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

賛美 32 「キリエ・エレイソン」

キリエエレインソン キリエエレインソン
しゅよあわれみをしゅよあわれみをしゅよあわれみを

キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン キリエ・エレイソン
しゅよ、あわれみを しゅよ、あわれみを しゅよ、あわれみを

聖書 ヨハネによる福音書 18:12~27

新約(新共同訳) P204~P205

12 そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下
役たちは、イエスを捕らえて縛り、13まず、アンナス
のところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイア
ファのしゅうとだったからである。14一人の人間が民
の代わりに死ぬ方が好都合だと、ユダヤ人たちに助言
したのは、このカイアファであった。

15 シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従っ
た。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと
一緒に大祭司の屋敷の中庭に入ったが、16ペトロは門
の外に立っていた。大祭司の知り合いである、そのもう
一人の弟子は、出て来て門番の女に話し、ペトロを中
に入れた。17門番の女中はペトロに言った。「あなたも、
あの人の弟子の一人ではありませんか。」ペトロは、
「違う」と言った。18僕や下役たちは、寒かったので
炭火をおこし、そこに立って火にあたっていた。ペトロ
も彼らと一緒に立って、火にあたっていた。

19 大祭司はイエスに弟子のことや教えについて尋ね
た。20 イエスは答えられた。「わたしは、世に向かっ
て公然と話した。わたしはいつも、ユダヤ人が皆集まる
会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何
もない。21なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何
を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その
人々がわたしの話したことを知っている。」22 イエス
がこう言われると、そばにいた下役の一人が、「大祭司
に向かって、そんな返事のしかたがあるか」と言って、
イエスを平手で打った。23 イエスは答えられた。「何
か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところ
を証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわた
しを打つのか。」24 アンナスは、イエスを縛ったまま、
大祭司カイアファのもとに送った。

25 シモン・ペトロは立って火にあたっていた。人々が、
「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と言うと、
ペトロは打ち消して、「違う」と言った。26 大祭司の
僕の一で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の
身内の者が言った。「園であの男と一緒にいるのを、わ
たしに見られたではないか。」27 ペトロは、再び打ち
消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。

賛美 301 「深い傷と流れる血に」

Deep were his wounds
 詞：William Johnson, 1906—1991 曲：Leland B. Sateren, 1913— MARLEE

1 ふ かい き ず と な が ー れ る ー 血 に
 2 あ な ど ら れ て 世 に ー す て ー ら れ、
 3 わ た し た ち を つ み ー と 死 ー よ り

あ え ぎ も だ え、 主 は ー く る ー し む。
 せ め と は じ に 主 は ー た え ー ら れ、
 す く う た め に 主 は ー 死 な ー れ た。

そ の み き ず こ そ が つ み び と ー を い や す。
 じゅうじ か で 勝 利 し、 す ぐ い と ー な ら れ た。
 じゅうじ か の 主 こ そ と こ し え ー の い の ち。

- 1 深い傷と流れる血に 2 あなどられて世に捨てられ、
 あえぎ悶え、主は苦しむ。 責めと恥に主は耐えられ、
 そのみきこそが 罪人をいやす。 十字架で勝利し、救いとなりました。
- 3 わたしたちを 罪と死より
 救うために 主は死なれた。
 十字架の主こそ とこしえの命。

説教 「イエスさまを拒むわたし」

賛美 313 「愛するイエス」

Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen
 詞：Johann Heermann, 1585—1647 曲：Johann Crüger, 1598—1662 HERZLIEBSTER JESU

1 愛 す る イ エ ス、 な い に を な さ れ て り
 2 む ち う た ど れ、 の い ば ら の か ん む り
 3 こ れ ほ ど の 痛 み 苦 し み
 4 ひ っ け だ け の 命 あ へ て 捨 て る。
 5 な ん と 深 い 主 の み 心 よ、

こ ん な さ ば き 受 け ら れ た か。
 何 の た め に 受 け ら れ た か。
 ど ん な 罪 を お か さ れ た の か、
 あ あ 私 の 罪 を 担 わ れ
 愛 す る 主 は、
 苦 し ま れ た。

か ぶ せ ら れ 蔑 ま れ た。
 そ の 命 あ へ て 捨 て る。
 酸 い ぶ どう 酒 十 字 架 の 上 で
 正 し い 主 が し も べ の た め に
 口 に さ れ た。
 罪 を 担 う。

み を お か さ れ た の か、
 う し の 十 字 架 を 担 っ た の
 主 が し も べ の た め に
 罪 を 担 う。

- 1 愛するイエス、何をなされて 3 これほどの 痛み苦しむ
 こんなさばき 受けられたか。 何のために 受けられたか。
 どんな罪を おかされたのか、 ああ私の 罪を担われ
 愛する主は、 苦しまれた。
- 2 鞭打たれ、茨の冠 4 羊飼いは 羊のために
 かぶせられ 蔑まれた。 その命 あえて捨てる。
 酸いぶどう酒 十字架の上で 正しい主が しもべのために
 口にされた。 罪を担う。
- 5 なんと深い 主のみ心よ、
 なんと広い イエスの愛よ。
 責め苦の道 歩まれたのは
 私のため。

派遣

司式者 主は言われます。
 「わたしは誰を遣わすべきか。」
 会衆 わたしがここにおります。
 わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメンアーメン

後奏 「愛するイエス (21--313)」 (D.ケルヴィーン)

司式：光成 由樹
 説教：向井 希夫牧師
 奏楽：大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、
 座ったままで礼拝をお守り下さい。